

「中長期整備実施河川の検討の説明会」における提出された質問・意見に対する  
県の考え方

会場	御意見	県の考え方
彦根会場 8月10日	水の大切さを河川から考えるべき。	ご意見のとおり、水は人間の生活に欠くことの出来ないまさに生命の源と言えます。 そこで、河川の整備を行うにおいては、治水、利水、環境の点に配慮して、住民の皆さんのご意見を伺って進めることとしております。
	人間には知恵があり、予算がなくても工夫すべき。	今回の検討においては、限られた予算の中で、いかに緊急に必要な河川の事業を効率的に進めるかについて、職員が検討を行っております。
	行政の一人ひとりが現場を見て考えるべき。	ご意見のとおり、現場を知ることは大変重要なことです。職員が自ら現場に出向き、現地の状況を把握し、何をすべきか考えることを積極的に取り組んでいかなければならないと考えております。
	A B C DランクとTランクの説明がもう一つ理解しにくかった。	今後の説明においては、理解いただきやすいよう工夫するよう努めてまいります。
	予算の確保	厳しい財政事情ではありますが、効率的な河川整備ができるよう検討すると共に、予算の確保に努めてまいります。
	「中長期整備実施対象候補河川の選定フロー(案)」について、もっと具体的な河川により説明するべきではないのか	今回の説明は、全体的考え方をお示したもので、検討結果は具体的な河川名を公表します。(10月3日県ホームページ公表済)
	蛇砂川および西の湖の整備方針について	河川整備計画の見直しを行う時点で説明会を開催する予定ですが、現時点では、開催日程等詳細は未定です。
	自助・共助・公助を組み合わせ(流域治水)に関してソフト対策とは具体的に何か	洪水に備えるための地域防災力向上対策として水害履歴の調査・公表、水害学習会、土地利用の誘導方針、洪水予報、水防訓練や図上訓練、ハザードマップの作成などの対策を考えています。
	芹川流域には危険な場所にもどんどん住宅が建っている。土地の利用について、もっといろいろな連携が進んで危険を回避することが大切。	ご意見のとおり、土地の利用の面から水害を回避・軽減させることは重要であり、水害に備えた土地利用のあり方や住まい方に関する検討を現在進めているところです。
	芹川で、川の中の木や草が増え、大水の時に水の流れを悪くする。大きな木などは定期的に切る必要があり、基準はあるのか。	河川内の竹木の繁茂や土砂の堆積などの維持管理については、県の財政状況が厳しい中、一度に対応することはできませんが、治水上支障のある箇所について、その緊急性を判断して、順次実施しているところです。なお、基準はありませんが個々の河川の状況を見て判断しています。
地域の住民が身近な川にもっと関心を持ち、自分たちのことを考えることが大切。	貴重なご意見で、あらゆる機会をとらえ、ご指摘の方向を旨として取り組んでいきます。	

会場	御意見	県の考え方
彦根会場 8月10日	<p>芹谷ダムの話が始まって20年以上になり、水没地区が多くありますが、中止？継続？ハッキリと行政は結論を早く出すべき。ダムに振りまわされずに、今のままの自然を残していきたい。</p>	<p>「中長期整備実施河川の検討」結果を踏まえ、他河川との安全度のバランスを考慮した上で、芹川の効果的で効率的な治水対策の選択をしていきたいと考えています。</p>
	<p>1. 河川整備計画の基本として河川としてあるべき姿(河川は厄介物ではない)を確保すべきが基本。</p>	<p>貴重なご意見で、今後の参考とさせていただきます。</p>
	<p>河川毎に過去の災害履歴を基本に整備規模を決定すると、県内河川行政上の統一をどう考えるか。</p>	<p>災害履歴も参考に他河川との安全度(目指すべき治水安全度)のバランスを考えています。</p>
	<p>市町行政の中へ、河川整備計画を担当させることが重要。</p>	<p>河川整備計画策定にあたっては、市町の意見を聴いて、十分な連携を図っていきます。</p>
	<p>気象条件の激変に伴う流出条件の変化を河川毎にあるいは流域区域毎の解析を理論的に整備する必要があるのではないか。</p>	<p>河川毎の具体の整備計画については、流域の特性を十分に踏まえたものとしていきます。</p>
	<p>局地豪雨、早めの情報を基本的に的確な伝達法の施策と整備に不安を感じる。</p>	<p>県では雨や主要な河川の水位情報を携帯電話で見ただけのような体制となっています。また、市町においても防災無線や携帯メールにより住民のみなさんにお知らせする体制を整備しているところです。今後も必要な情報を的確にお伝えすることができる体制整備に努めていきます。</p>
	<p>堤内の小河川、放水路、側溝の降雨の行き先整備をどう考えているか。</p>	<p>河川整備に際しては、下水道事業をはじめ流出を抑制する方策も考慮し、連携を図ることが重要と考えています。</p>
	<p>各家庭において雨水貯留(タンク)の施策を推進することは考えているか。</p>	<p>雨水の各戸貯留については、流域治水対策の「ためる」対策の1つとして位置づけ、推進していく必要があると考えています。下水道事業の中で補助制度(大津市、東近江市、米原市)があります。</p>
	<p>行政・自治体・地域自治会との共有部分とそうでない部分のすみ分けを互いに確認しあっていく作業はできているのか。</p>	<p>これからの治水対策については、住民のみなさんと行政とが協働で実施していくことが必要と考えており、様々な機会幅広く河川管理者としての考えを説明したいと考えています。</p>
	<p>一級河川不飲川改修事業の促進(要望)</p>	<p>地元と協議し、取り組んでまいります。</p>

会場	御意見	県の考え方
彦根会場 8月10日	<p>河川のいろいろなデータは集められているか。河床に草木が繁茂し、維持管理が必要。季候が変動し、ゲリラ豪雨の対応が難しい。</p>	<p>河川内の竹木の繁茂や土砂の堆積などの維持管理については、県の財政状況が厳しい中、一度に対応することはできませんが、治水上支障のある箇所について、緊急性の高いところから、順次実施しているところです。</p>
	<p>国でも県でも借金だらけで、費用の面でも社会保障等優先順位を考える必要があります。大変難しい問題であると思えます。</p>	<p>厳しい財政の中で、効率的・効果的な河川整備を進めるために、このたび優先度を検討しました。</p>
	<p>住民との連携をもっと強めていくことが必要</p>	<p>河川事業、流域治水を進める上にも住民の方々の理解・協力は重要と考えています。 除草などの河川の維持管理をはじめ、洪水被害から人命を守り、地域を守るためにも様々な分野での連携が必要と考えています。</p>
	<p>河川改修については、局地的豪雨が多く、県、市町などだけでの対応は無理であり、行政は河川の状況を把握し、住民に知らせる。その上で、行政のできること、住民の自助努力を求め、お互いのコミュニケーションが大切。</p>	<p>着実な河川整備とともに、どのような洪水にあっても被害をできるだけ少なくするために、川の外での様々な対策を検討しており、自助・共助・公助の役割分担と連携が重要と考えています。</p>
	<p>計画策定スケジュール通り速やかに進めて欲しい。</p>	<p>「中長期整備実施河川」の検討を進め、川づくり会議などを行い、河川整備計画を策定し、効率的・効果的な河川整備を進めます。</p>
	<p>彦根と長浜で豪雨を直接体験した。小河川は短時間降雨に極めて弱く、中・大河川はその全てが全く水位の上がない状況でした。長時間に亘る中大河川流域に降る台風や梅雨の状況と、集中的な短時間降雨では整備の方法が違うと考えます。整備計画はこのところを十分に詰める必要があると思えます。(小河川の宅地密集域はソフト計画のみでも仕方無い場合もある。)</p>	<p>内水氾濫も含め、洪水シミュレーションを行っており、こうした情報を利用したハザードマップの作成も考えています。また、堤防が決壊すると被害が大きくなるのでそのための対策も重要と考え調査・検討を考えていきます。</p>
	<p>河川整備は滋賀県では明治29年9月が計画降雨確率計算の中に入っていますが、この値は極値のため除外しないとおかしいのではないか。</p>	<p>現在の滋賀県の降雨強度式は、彦根地方気象台のデータを基に設定しています。M29は実績降雨であるため含めています。</p>
<p>1/500年規模とその次は200～250年規模まで降雨量が無(空白)いため整備水準が10%以上上昇しますので、この辺コスト縮減より除外を望みます。(縮減により小河川整備への活用)</p>	<p>規模の大きな河川では、概ね1/10～1/30の安全度確保を目標に改修を進めることとしています。トンネルなど個々の事情により目標を1/100としている場合がありますが、前期のように段階的整備を基本としています。</p>	

会場	御意見	県の考え方
彦根会場 8月10日	説明が治水だけになってしまって、環境保全といわれる部分にまで踏み込むところまで至っていないのではないかと。	資料の3頁の方針のところに記載しておりますが、今回の検討は治水の観点で整備優先度を評価しています。環境・利水については、河川整備計画策定時や事業に取り組む段階において必ず検討を行うこととしております。
	河川整備に対する意見についても、その地域毎の意見として、参考にしながら淀川水系としてどのようにあるべきかの見解を示すべきではないかと。	淀川水系河川整備基本方針や整備計画(案)を踏まえ、県の河川整備計画をまとめて行きます。
	長浜の市街地での局地的な降雨での説明について、局地と地方全域的な豪雨になった時の河川整備計画を示すべきではないだろうか。予測出来ない気象的条件の中で、河川行政の視点はもっとマクロの視点であるべき。	個々の河川の安全性を向上させると共に地域でバランスの取れた整備を進めることとしています。
	大河川で頻繁に発生する瀬切れ問題、慣行水利権の名のもとに取水される河川水の利水事業、その利水で使用された水が琵琶湖に流入する時の水質負荷等を史料に考えた整備計画案の説明があつてしかるべきではないかと。その過程での琵琶湖のあるべき姿がイコールで整備計画の中で出てこなければならぬと考えます。	各圏域の河川整備計画においては、治水、利水、環境についても、検討し策定を進めていきます。高度に水利用されている現状の中で、瀬切れの解消は困難な課題と認識していますが、利水者を含む関係者間の流水枯渇に関する問題意識の共有化に努めるとともに、異常湧水時には関係機関と連携して節水を呼びかけるなど適正な水管理に努めます。琵琶湖に流入する汚濁負荷については、「マザーレイク21計画」により各種事業を展開し、負荷削減に努めているところです。
	進行方法が良くなかった。	今後の運営などの参考とさせていただきます。
	琵琶湖より見た全地域の中で四ダムについては、意見交換をしないのか？さらには、地球規模で拡大する温暖化と異常気象を視野と予測するようなスケールの説明会を希望します。	今後の各圏域の河川整備計画を策定の際に、河川毎の意見を伺うことを考えおります。また、地球規模で拡大する温暖化や異常気象については、国でも検討が進められており、今後どのように計画に反映していくのか十分な検討が必要と考えています。
	1. 私たち多賀町を含む芹谷地域は滋賀県の河川政策の犠牲集落であることを認識したうえで中長期整備実施河川の検討をしてもらいたい。	芹谷ダム建設事業の長期化により、ダム建設予定地の皆さまに大変な心労をお掛けしていることは、十分承知しております。今回の中長期整備実施河川の検討においては、本県の厳しい財政状況の中にあっても、県全体の治水安全度のバランスを確保し、効果的で、効率的な河川整備を進めるため、様々な客観的な指標を用いて評価しようとするものです。

会場	御意見	県の考え方
彦根会場 8月10日	<p>2. 既に、湖東圏域河川整備計画(案)も策定されていると説明を受けています。今また河川整備計画(案)策定のための検討をされるようですが、納得できる説明を願います。</p>	<p>これまでも氾濫域の人口や資産、水害実績の程度等に基づき、各河川の治水対策の緊急性・必要性を考慮して参りましたが、現在の本県の厳しい財政状況の下で、県内各河川の安全度のバランスを考慮し、より効果的で効率的な河川整備を行うため、「中長期整備実施河川の検討」を行っています。この検討結果を踏まえて、湖東圏域の河川整備計画を策定することとします。</p> <p>「中長期整備実施河川の検討」の結果を基にした具体的な整備内容は、「芹川川づくり会議」、「淡海の川づくり検討委員会」を経て、河川整備計画として取りまとめていきたいと考えています。</p> <p>関係の皆さまには、大変ご心配をお掛けして申し訳ございませんが、この間の事情をお察しの上、ご理解とご協力をお願いいたします。</p>
	<p>3. 若い頃から、何十年も下流彦根市の水害対策にはダム建設以外では対応できないと滋賀県の職員さんに説明、説得されて苦渋の判断、決断して協力してまいりましたが、滋賀県の手のひらで踊らされています。中長期整備河川の検討は、2年後、3年後も信念と誇りをもって続けてゆく河川政策となる私たちも納得できるものにしてください。</p>	<p>「中長期整備実施河川の検討」は、現在の県の置かれた厳しい状況下で、今後の20年間を見通して、県下全域での安全度のバランスに配慮し、最大限の治水効果を発現できるようにするもので、ダム建設予定地の皆さまの生活再建については、この検討とは別の観点で、県としてできるだけ早い時期に方向を示させていただき責務があると認識しております。</p>
	<p>4. 芹谷ダム建設事業はどうなりますか。この中長期整備実施河川の検討結果により左右されるなら私たちに説明があるべきです。大津市長も「知事は聞く耳を持たないので、対話にならない」とされています。同感です。今回の河川のランク付けも滋賀県の一方的なものにならない良識あるものにしてください。</p>	<p>「中長期整備実施河川の検討」結果を踏まえ、他河川との安全度のバランスを考慮した上で、芹川の効果的で効率的な治水対策の選択をしていきたいと考えています。</p>
	<p>中長期整備案P-3整備実施河川の内容の検討 量の確保は下流では河床は下げられず広げられずであれば、質の向上を具体的に示してください。</p>	<p>資料P43に記載していますが、堤防への浸透や、洪水による浸食により堤防が崩壊することを防ぐため、堤防を点検、調査した上で、必要性に応じて対策を実施することを考えております。</p>
	<p>Ⅰ. 現場の要望</p>	<p>湖東地域振興局建設管理部において対応をします。</p>
	<p>Ⅱ. 大規模な事業概ね5億以上・・・金額の大小ではなく、人命の数を考えれば、天井川で住宅地と堤防との高低差が最優先で緊急性がある。</p>	<p>「量の確保を図るため」一連区間の事業を想定し、県単独事業では、全体事業費が5億円以上を検討対象としています。なお、資料P-43に記載しており、現状においては市街地近傍の天井川など現地調査を行い、優先度に応じて対策に取り組んでおりますが、今後はTランク河川についても、現地調査を進めて、優先度に応じて対策を順次実施していくことを考えております。</p>
	<p>P-43の質的向上について Ⅰ. 池洲橋より下流左岸の副堤防の役割、効果は右岸と比較して大きな安全性の違いがあり、十分な分析、検証をされたい。</p>	<p>今後、調査を進めます。</p>

会場	御意見		県の考え方
彦根会場 8月10日		P - 7 施設の質的向上選定(案)について Tランクに該当する地域であると考えています。	説明をしました指標による河川の選定を行い、結果については、10月3日に公表しました。
		洪水時の下流における流速、流木の橋への影響について、現実的な説明をお聞きしたい。	川の勾配、川幅や水深などにより流速は変わりますが、洪水時は平常時の数倍くらいの流速となると想定されます。また、上流から流れてくる流木は、途中の橋などに引っかかると、水の流れを阻害し、被害の原因となることがありますが、状況は千差万別であり、まずは現在定められている基準等とてらし合わせて、堤防の幅や橋梁の構造が満足なものかどうか確認を進めています。